

## 留学生体験レポート

国際学部 2年 星山聖夜

### 1. はじめに

私は、アメリカ合衆国での4ヶ月の留学を決意した理由が3つあります。1つ目は、自分の英語の力を向上させたいと感じたからです。もちろん、日本で英語を学習していく環境は十分にあるのですが、実際にアメリカに住んでみて学んでいくものは日本で学ぶのと少し違う部分があると捉えました。例えば、アメリカに住むことに伴って、周りの環境は全員英語を話すネイティブとなります。よって、必然的に英語を話さざるを得なくなるといった環境に自分の立場を置くことによって日本にいる時よりも効率的に自分の英語の力を伸ばしていけるのではないかと考えました。2つ目は、自分は小さい頃から英語というものに興味を持っていた故、アメリカ合衆国の文化を学びたいと感じました。日本も少なからず欧米の文化を取り入れている部分もあるのですが、それら以外の現地の文化に直接触れてみたいと思ったからです。3つ目は、現地の人々とたくさん交流したかったからです。1つ目の理由と重なる部分ではありますが、現地の人々とたくさん友達を作ることによって、アメリカの人々との絆、かつ英語学習の向上につながると考えました。

上記で述べた海外留学の動機を前提に、これから体験談を述べたいと思います。

### 2. アメリカでの生活

まず初めに、アメリカでの生活を述べたいと思います。セントラルミズーリ大学の寮で生活で衣食住をこなし、平日は一時間目の開始が8時でした。よってその時間までに起床し、寮と隣接した食堂で朝食をとり、授業に参加するというのが基本でした。授業は4時に終わり、寮へと帰るとというのが生活サイクルで基本的な生活面においては日本にいるときと変化はさほどなかったというのが自分の感想です。アメリカの生活で驚いたのは、現地の「食」でした。日本とは大幅に違いお米はほとんど見られず、ほとんどがパンや肉類でした。

休日は、大学付近のお店や大学から徒歩15分ほど離れたダウンタウンで遊びに行くなどして時間を過ごしました。希に、現地の人々の車に乗せてもらい遠くへ買い物へ出掛けたり、大学の寮の隣にあるアメリカンフットボールの会場で試合を観戦するなどしました。

寮にいる間、お風呂やトイレなどは隣の部屋に住んでいる方と共同で使うといった生活でした。

### 3. 授業及び課外活動について

平日は1日の大半が授業といった生活でした。コミュニケーション英語と呼ばれる授業では、自分のクラスのクラスメイトと決められた議題について英語で討論することが多かったです。実際に英語で真剣な議題について討論会するという経験はあまりなかった

ので、より勉強になったと感じました。グラマー英語と呼ばれる時間では、まだ自分の知らない文法やちょっとした違いのニュアンスが知れる授業でした。アメリカの授業へプレゼンテーションが非常に多く、たくさん練習も行うことができたのでよかったです。

課外活動では、サンクスギビングと呼ばれる一週間ほどの休日が設けられた休みの期間があり、そこで自分はニューヨークへ観光へ行きました。アメリカの有名な美術館へ行ったり、自由の女神へ観光に行ったりしてとても充実した一週間であったなと感じます。

#### 4. おわりに

4ヶ月のアメリカでの留学を経て、学んだことがたくさんありました。行く前に立てていた3つの目標を全て達成でき、さらに先生方の協力、授業のやり方などの丁寧なさのおかげで自分の英語の力をより伸ばせたと実感できました。4ヶ月ととても短い期間ではありましたが、飛躍的に英語の力を伸ばしてくれた現地の人々、先生方に感謝の気持ちで一杯です。